2025 年度表彰報告

表 彰 委 員 会

2025 年度の環境科学会学会賞，学術賞，奨励賞，論文賞は，次の方々に贈呈することが，理事会の議を経て決定致しました。各賞受賞者は，2025 年 9 月 4 日(木) ～ 5 日（金）に叡啓大学で開催される環境科学会 2025 年会でご講演いただき，表彰式で表彰します。

学会賞： 該当なし

学術賞（1 名）

森保文（国立環境研究所・シニア研究員）
表彰課題：市民・企業の自主的な環境活動の要因と戦略に関する研究

奨励賞（1 名）

牧誠也（国立環境研究所・主任研究員）
表彰課題：空間情報を用いた資源の需給ポテンシャル解析に関する研究

論文賞（1 編）

森口暢人*, 伊藤理彩*, 東海明宏*
（* 大阪大学）
対象論文：土砂災害警戒区域内に立地する PRTR 対象事業所における Natech リスクの抽出
環境科学会誌, 35 巻 6 号, 355-376 (2022)

[選考経過等]

環境科学会では, 学会規程により, 環境科学分野において顕著な業績をあげた研究者に学会賞, 学術賞, 奨励賞を, また, 環境科学会誌に優れた論文を発表した著者に論文賞を贈呈することが定められています。上記の 2025 年度各賞受賞者の選考経過は以下のとおりです。

表彰規程に従い，環境科学会 Web サイトに 2024 年 12 月 2 日を締め切りとして，各賞受賞候補者の推薦依頼を会告として告示しました。その結果を受けて，2025 年 1 月 27 日に表彰委員会を開催して各賞受賞候補者を選考し，その選考経過を 2025 年 2 月 10 日に開催された理事会に報告し，理事会の議を経て各賞受賞者が正式に決定されました。

例年，学会賞受賞者には表彰式後に記念講演を，学術賞受賞者には年会において受賞記念シンポジウムを企画していただき，その中で受賞記念講演を行っていただくよう依頼することとしています。また，奨励賞および論文賞の受賞者についても，年会の関連する一般研究発表あるいはシンポジウムの中でそれぞれ受賞記念講演を行っていただくよう依頼することとしており，現在，年会委員会と協議の上，準備中です。会員の皆様の年会への多数ご参加をお待ちしています。

最後に，2026 年度表彰について，受賞候補者の推薦を，2025 年 12 月初旬あたりを締切として会員の皆様にお願いする予定であることを記して，2025 年度表彰報告と致します。

[2025 年度表彰委員会（2025.3～2026.3)]

委員長	松本亨	北九州市立大学
理事	小林剛	横浜国立大学
	田畑智博	神戸大学
幹事	沼田大輔	福島大学
	徳村雅弘	静岡県立大学
委員	大野朋子	神戸大学
	甲斐田直子	筑波大学

小島直也　　産業技術総合研究所
杉本賢二　　大阪公立大学
田原麻衣子　　国立医薬品食品衛生研究所
藤森真一郎　　京都大学
増原直樹　　兵庫県立大学

[2025 年度の各賞受賞者]

学術賞

森 保文
（もり　やすふみ）

受賞者氏名：森 保文（もり　やすふみ）
表彰課題：市民・企業の自主的な環境活動の要因と戦略に関する研究
所属・職：国立環境研究所・シニア研究員
専門分野：工学，心理学，農学
略歴：

1992 年 筑波大学第二学群卒業，博士（農学）
1994 年 国立環境研究所 社会環境システム領域 主任研究員
2013 年 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 主席研究員
2022 年 国立環境研究所 社会システム領域 シニア研究員（現在に至る）

表彰理由：

森保文氏は，主に市民・企業の自主的な環境活動への参加の要因について，アンケートやインタビュー調査などによって明らかにした成果を環境科学会誌において多く公表し，ISO14001 や環境ボランティアのリクルート戦略など，メッセージ性のある論文を多く執筆してきた。その成果は，科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞などの形で結実している。このように，森氏のユニークかつ一貫した着実な研究蓄積と成果の社会還元は，環境科学分野において特に優れた研究業績を挙げた者に与えられる環境科学会学術賞にふさわしいと評価できる。

主要業績：

【論文】

1. Mori Y., Asano T., Maeda Y., Effects of Intention, Attitude, Social Pressure, Moral Norm, and Perceived Cost on Volunteering -Applying the Theory of Planned Behavior-, 環境科学会誌, 37 巻 3 号, 80-91（2024）
2. Mori Y., Asano T., Maeda Y., Are Social Network Services Effective for Recruiting Volunteers?, 環境科学会誌, 32 巻 6 号, 204-213（2019）
3. 森保文, 前田恭伸, 淺野敏久, 清掃活動とスポーツの組み合わせがボランティア募集に与える影響, 環境科学会誌, 28 巻 3 号, 230-240（2015）
4. Mori Y., Mori K., Inuduka H., Maeda Y., Asano T., Sugiura S., Determinants of Volunteering based on a Theory of Volunteer Opportunity, 環境科学会誌, 21 巻 5 号, 391-402（2008）
5. 森保文, Welch E.W., 中小の事業所における ISO14001 審査登録の動機と排出削減目標に対する効果, 環境科学会誌, 20 巻 2 号, 87-94（2007）
6. 森保文, Welch E.W., 吉田早苗, ISO14001 を含む環境マネジメント手法の環境負荷管理への影響, 環境科学会誌, 18 巻 3 号, 277-289（2005）
7. 森保文, 寺園淳, 酒井美里, 乙間末廣, ISO14001 審査登録企業の環境面への取り組みおよび環境パフォーマンスの現状, 環境科学会誌, 13 巻 2 号, 193-204（2000）
8. 淺野敏久, 前田恭伸, 森保文, 犬塚裕雅, コロナ禍により顕在化した環境市民団体の情報化対応をみる地理学的視点 -「環境パートナーひろしま」構成団体の事例から-, 地理科学, 79 巻 1 号, 1-23（2024）
9. Mori Y., Asano T., Maeda Y., Which is the Key for Participation in Volunteer Activities, Factors of Demographic, Psychology, or Related to Being Asked?, Journal of Human and Environmental Symbiosis, 39(1), 55-65（2023）
10. 前田恭伸, 森保文, 淺野敏久, 犬塚裕雅, 市民活動のためのボランティア募集と ICT 利用についての実態調査, エコミュージアム研究, 25 巻, 80-86（2021）
11. Mori Y., Asano T., Maeda Y., What Prompts Volunteer Activity - Choice or Coincidence? Impact of Perceived Cost-Benefit and Information Source on Participation, The Nonprofit Review, 19(1&2), 101-109（2019）

12. 森保文, 根本和宜, 中村省吾, 犬塚裕雅, 二酸化炭素排出量削減と地域経済への影響に基づく森林バイオマス利用システムの比較 -未利用材を用いた熱利用および発電-, エネルギー・資源, 38 巻 5 号, 19-26 (2017)
13. 根本和宜, 中村省吾, 森保文, 家庭向け木質バイオマス燃焼機器の普及と燃料消費量, 林業経済研究, 63 巻 3 号, 82-91(2017)
14. Nemoto K., Inuzuka H., Nakamura S., Mori Y., Supply Chain Analysis for Determining the Requirements for Continuous Woody Biomass Energy Utilization Systems: Comparison of the Actual Management Conditions in Japan, International Journal of Environmental and Rural Development, 8(1), 203-209(2017)
15. 森保文, 根本和宜, 前田恭伸, 淺野敏久, 伊藝直哉, 環境配慮行動に与えた東日本大震災の影響とその機構, 環境共生, 24 巻, 43-53(2014)
16. 森保文, 金子拓郎, 田崎悟, 根本和宜, 小松恭子, コンビニ店におけるレジ袋利用の現状と決定要因, エネルギー・資源, 33 巻, 283-286(2012)
17. 杉浦正吾, 幡谷祐一, 森保文, 根本和宜, 水野谷剛, 内田晋, 小松恭子, 氷鉋揚四郎, 環境コミュニケーション効果の測定 -鹿島アントラーズ・エコプログラムを事例に-, 環境共生, 17 巻, 121-130(2010)
18. 森保文, 森賢三, 犬塚裕雅, 前田恭伸, 淺野敏久, 杉浦正吾, 参加したいボランティア活動の種類と動機の関係, The Nonprofit Review, 10 巻 1 号, 1-11(2010)
19. Mori Y., Eric W.Welch, The ISO 14001 Environmental Management Standard in Japan: Results from a National Survey of Facilities in Four Industries, Journal of Environmental Planning and Management., 51 巻 3 号, 421-445(2008)
20. 森保文, 前田恭伸, 淺野敏久, 井田国宏, ボランティア参加のコスト・ベネフィット -佐鳴湖浄化のためのヨシ刈りを例として-, 環境システム研究論文集, 36 巻, 483-489(2008)

など多数

【書籍】

1. NPO NGO 事典 - 市民社会の最新情報とキーワード, 山内直人, 田中敬文, 奥山尚子編 (分担執筆範囲: 第 2 部 NPO・NGO キーワード), 大阪大学 NPO 研究情報センター(2012)
2. NPO 白書 2007, 山内直人, 田中敬文, 河井考仁, 奥山尚子編 (分担執筆範囲: 6.環境 NPO), 大阪大学 NPO 研究情報センター(2007)

奨励賞

牧 誠也
（まき　せいや）

受賞者氏名：牧 誠也（まき　せいや）
表彰課題：空間情報を用いた資源の需給ポテンシャル解析
に関する研究
所属・職：国立環境研究所・主任研究員
専門分野：環境システム工学
略歴：

2010 年　明治大学農学部 卒業
2012 年　東京大学大学院 工学系研究科 修士課程 修了
2015 年　東京大学大学院 工学系研究科 博士課程
単位取得退学
2015 年　東京大学大学院 博士(工学) 取得
2016 年　国立環境研究所 社会システムセンター特別研究員
2019 年　国立環境研究所 社会システム領域 研究員
2023 年　国立環境研究所 社会システム領域 主任研究員
（現在に至る）

表彰理由：

牧誠也氏は，空間情報を用いることで資源の需給ポテンシャルなどを解析し，環境政策に資する研究を行っており，近年では，空間的な廃棄物発生量推計をもとにした資源循環利用計画の策定を支援するシステムやほかの循環資源への拡張方法の開発を進めている。環境科学会誌では，水利用システムにおける多面的な評価軸を用いて多様な利害関係者間の合意形成を支援する方法を提案した研究，空間的かつ組成別に詳細に廃棄物の発生状況を推計した研究を筆頭著者として報告した他，都市施設ごとのエネルギー需要の評価・推計などを国際誌にて発表している。このように，社会的要請の高い研究テーマに焦点を当て，数値解析・システム分析に基づいた政策支援に資する研究を幅広く行っており，その成果は環境科学会誌をはじめとした多数の学術雑誌に論文が掲載され，高い評価を得ている。このように，環境科学の分野での社会的・学術的発展に大きく貢献している。

主要業績：

【業績課題に係わる主要論文】

1. 牧誠也, 大西悟, 藤井実, 河井紘輔, 後藤尚弘, 焼却施設の廃棄物組成と家計消費額のデータ結合による全国レベルでの家計消費額当たり組成別廃棄物発生量原単位推計法の開発, 環境科学会誌, 37 巻 1 号, 1-14（2024）
2. 牧誠也, 中谷隼, 栗栖聖, 花木啓祐, 多目的最適化された代替案を用いた水利用システム計画の段階的合意形成支援法, 環境科学会誌, 29 巻 6 号, 283-295（2016）

【論文】

1. 藤井実, 大西悟, 牧誠也, 岡寺智大, 後藤尚弘, 廃棄物焼却熱の産業での活用を推進するための情報共有と安定需給に関する検討, 環境科学会誌, 35 巻 5 号, 282-291（2022）
2. Maki S., Fujii M., Tsuyoshi Fujita, Shiraishi Y, Ashina S., Gomi K., Sun L., Nugroho S.B., Nakano R., Osawa T., Immanuel G., Boer R., A Deep Reinforced Learning Spatiotemporal Energy Demand Estimation System using Deep Learning and Electricity Demand Monitoring Data, Applied Energy, 324, 119652（2022）
3. Maki S., Ohnishi S., Fujii M., Naohiro G., Lu S., Using Waste to Supply Steam for Industry Transition: Selection of Target Industries through Economic Evaluation and Statistical Analysis, Journal of Industrial Ecology, 26, 1475-1486（2022）
4. 平野勇二郎, 牧誠也, 中村省吾, 藤田壮, 福島県新地町における統合的エネルギーモニタリング解析と電力消費量推定手法の構築, 地球環境, 27 巻 1 号, 31-40（2022）
5. Maki S., Ohnishi S., Fujii M., Goto N., Sun L., Technical and Economic Analysis of Potential Steam Supply from Waste Treatment Plants to Industries in Aichi Prefecture, Japan,

Optimization and Engineering, 22, 1755-1782（2021）

6. Fujii M., Dou Y., Sun L., Ohnishi S., Maki S., Dong H., Dong L., Chandran R., Contribution to a Low-Carbon Society from Improving Exergy of Waste-to-Energy System by Upgrading Utilization of Waste, Resources, Conservation & Recycling, 149, 586-594（2019）
7. 牧誠也, 大西悟, 藤井実, 後藤尚弘, 五味馨, 地域特性を考慮した収集運搬による費用・CO_2 排出量推計のための修正グリッドシティモデルの開発 ―愛知県を対象としたケーススタディー, 廃棄物資源循環学会論文誌, 30 巻, 153-165（2019）
8. Maki S., Chandran R., Fujii M., Fujita T., Shiraishi Y., Ashina S., Yabe N., Innovative Information and Communication Technology (ICT) System for Energy Management of Public Utilities in a Post-Disaster Region: Case Study of a Wastewater Treatment Plant in Fukushima, Journal of Cleaner Production, 233(1), 1425-1436（2019）
9. Chandran R., Fujita T., Fujii M., Ashina S., Gomi K., Boer R., Ardiansyah M., Maki S., Expert Networks as Science-Policy Interlocutors in the Implementation of a Monitoring Reporting and Verification (MRV) System, Frontiers in Energy, 12, 376-388（2018）
10. Maki S., Ashina S., Fujii M., Fujita T., Norio Y., Kenji U., Gito G., Rizaldi B., Chandran R., Employing Electricity-Consumption Monitoring Systems and Integrative Time-Series Analysis Models: A Case Study in Bogor, Indonesia, Frontiers in Energy, 12, 426-439（2018）
11. 牧誠也, 藤井実, 藤田壮, 白石靖, 芦名秀一, インドネシア産業施設のエネルギー消費量計測システムとエネルギー解析モデルの開発, 土木学会論文集 G(環境), 74 巻 6 号, II_73-II_83（2018）
12. 牧誠也, 芦名秀一, 藤井実, 内田賢志, 相沢研吾, 藤田壮, Chandran Remi,インドネシアの民生部門への電力消費観測システム導入および多変量時系列モデルによる電力消費量予測, 土木学会論文集 G(環境), 73 巻 6 号, II_35-II_43（2017）
13. Dou Y., Fujii M., Fujita T. Gomi K., Maki S., Tanikawa H., Potential of Waste Heat Exchange Considering Industrial Location Changes: A Case of Shinchi-Soma Region in Fukushima, Japan, 土木学会論文集 G(環境), 73 巻 6 号, II_353-II_363（2017）
14. 五味馨, 藤田壮, 岡島優人, 越智雄輝, 文屋信太郎, 牧誠也, Dou Yi, 井上剛, 古明地哲夫, 大島英幹, 将来空間分布の影響を考慮した低炭素対策の導入可能性評価手法の開発, 土木学会論文集 G（環境）, 73 巻 6 号, II_343-II_352（2017）
15. Maki S., Fujii M.,Murasaki M.,Ohtagaki T.,Manabe K.(2025)：Verification Experiments on CO_2 Reduction Planning from the Estimated Waste Collection Amount at Waste Stations Using Waste Collection Vehicle Route Log Data, Waste Management, 200, 114756

など多数

論文賞

受章者氏名：森口暢人*，伊藤理彩*，東海明宏*

対象論文：土砂災害警戒区域内に立地する PRTR 対象事業所における Natech リスクの抽出,2022 年 35 巻 6 号，355-376

受賞論文における所属：* 大阪大学

表彰理由：

本論文は，全国の PRTR 対象事業所における土砂災害リスクを定性的に評価し，クラスター分析などを用いて分類している。これにより，優先的に調査すべき事業所を特定し，事前対策を実施するための有益な知見が提供されている。新規性と独自性の高いアプローチが採られ，丁寧な検討が積み重ねられている。災害の増加が懸念される中で，時宜を得た有用な研究であり，環境科学の分野で将来性も期待できる。以上の理由から，本論文は本会の論文賞に値すると考えられる。

森口 暢人
（もりぐち　のぶと）

伊藤 理彩
（いとう　りさ）

東海 明宏
（とうかい　あきひろ）